

全国障害者スポーツ大会の概要

障がい者支援課

1 主催

(公財)日本障がい者スポーツ協会、文部科学省、開催地都道府県、市町村、その他関係団体

2 目的

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。

3 開催時期及び開催期間

国民体育大会本大会の直後を原則として、3日間（例年、概ね10月中）

4 参加資格

13歳以上の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

5 実施競技

区分		競技数	競技名 (身：身体障がい者、知：知的障がい者、精：精神障がい者)
正式競技	個人競技	6	・陸上競技（身・知） ・アーチェリー（身） ・卓球（身・知）[サウンドテーブルテニス（身）を含む] ・ボウリング（知） ・水泳（身・知） ・フライングディスク（身・知）
	団体競技	7	・バスケットボール（知） ・ソフトボール（知） ・サッカー（知） ・バレーボール（身・知・精） ・車椅子バスケットボール（身） ・グランドソフトボール（身） ・フットベースボール（知）
オープン競技			広く障がい者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められるものについて、主催者間で協議のうえ実施

※正式競技については、全国障害者スポーツ大会大会委員会で協議し、開催年の5年前までに日本障がい者スポーツ協会が決定。

※今後導入が予定されている競技：2019年～卓球（精）、2021年～ボッチャ（身）

6 大会規模等

・選手 約3,500人 ・役員 約2,000人

・観客 約32,000人（H28いわて大会）

・大会開催経費 約20億円

[第17回（2017年）えひめ大会への長野県選手団派遣人数：38人]

7 その他

(1) 全国障害者スポーツ大会は、昭和40年（1965年）から行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と、平成4年（1992年）から行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、平成13年（2001年）から国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われている。

(2) 本県では、昭和53年（1978年）「やまびこ国体」の開催後に、「第14回全国身体障害者スポーツ大会（やまびこ大会）」を開催して以来の開催となる。